

普及だより

●編集発行

大隅地域振興局農林水産部農政普及課

肝属地域農業改良普及事業協議会

ホームページ <http://www.pref.kagoshima.jp/chiiki/osumi/index.html>

鹿屋市打馬2丁目16-6

TEL: 0994-52-2146

FAX: 0994-52-2147

<新年明けましておめでとうございます!!>

◎肝属地域農業改良普及事業協議会長（肝付町長 永野 和行）

皆様におかれましては、お健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。昨年は、7月に九州北部豪雨が発生し甚大な被害を引き起こしました。さらに9月、10月と相次ぐ大型台風の本土上陸で、大隅地区はもとより、県内、九州、さらには全国にわたって局地的な強風と大雨により、植え付けたばかりの農作物や施設などが多大なる被害を受け、あらためて自然の驚異を思い知らされました。

このような中、9月に宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会で、「鹿児島黒牛」が栄えある総合優勝を獲得し「全国和牛チャンピオン」に輝きました。畜産王国鹿児島・大隅の素晴らしさを国内外に発信できたことに、多大な労苦をいただいた生産者や関係者の皆様に心から感謝の意を表し、厚く御礼を申し上げます。

当協議会では、本年度も引き続き、関係機関・団体と緊密な連携を図りながら、災害からの早期復旧、地域農業・農村の発展に尽力してまいります。

最後に、皆様方の御健康と御多幸を願い、本年が肝属地域の農業・農村の更なる飛躍の一年となりますよう心から御祈念申し上げます。



◎大隅地域振興局 農林水産部 農政普及課長（永吉 治）

皆様におかれましては、希望あられる新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、肝属地域において県茶業振興大会「かごしまお茶まつり肝属大会」が、初めて地区単位で盛大に開催され、「きもつき茶」の良さを消費者等にPRすることができました。

また、全国和牛能力共進会宮城大会において、本県の和牛が日本一となりましたが、肝属地域からは14頭が出品され、いずれも上位に入賞し、和牛日本一に大きく貢献しました。これもひとえに生産者及び関係機関の御尽力の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。

農業・農村を取り巻く環境は、農業者の高齢化やグローバル化の進展など、大きく変化しています。肝属地域では、今後とも、「安心・安全・新食料供給基地」の構築に向けて、意欲ある経営体の育成や若手農業者の育成、肝属の特性を活かした産地づくり、持続的発展のための営農システムづくりなど様々な課題に取り組んでまいります。

農政普及課では、今後も皆様方と一体となって、これらの課題を解決するために、精一杯取り組んでまいります。肝属地域の農業・農村の明るい未来を一緒に築いていきましょう。

最後に、皆様方の御健康と御多幸を祈念し、本年が、肝属地域の農業にとりまして、素晴らしい一年になりますよう心からお祈りいたします。



祝 鹿児島県が総合優勝！ 第11回全国和牛能力共進会

9月7日から11日にかけて、宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会（5年に1回開催され「和牛のオリンピック」とよばれる）において、本県から出品した「鹿児島黒牛」が**団体賞1位（総合優勝）**となり、悲願の日本一に輝きました。全出品9部門のうち4部門で1位を獲得するとともに、出品した全ての区において**上位6席に入賞する**という輝かしい成果を収めました。

団体賞は2007年の鳥取全共から設けられ、これまで、宮崎県が2連覇していました。

今大会には、**全国から過去最多の513頭が出品され**、本県からは30頭が出品されました。出品牛の約半数の14頭が肝属地域の出品牛で、すべてが優等賞1～5席以内に入賞するという成績を上げ、鹿児島県の総合優勝に大きく貢献しました。

〔県代表成績〕

種目	地区	市町村	氏名	褒賞内訳
1区	若雄	曾於市大隅町	肉用牛改良研究所	優等賞1席
		曾於市大隅町	肉用牛改良研究所	優等賞6席
2区	若雌の1	始良 霧島市霧島	園田 義昭	優等賞3席
		曾於 鹿屋市輝北町	森ファーム	優等賞4席
3区	若雌の2	曾於 志布志市志布志町	徳重 祐太郎	優等賞1席
		曾於 曾於市末吉町	森岡 徳幸	優等賞5席
4区	系統雌牛群	肝属 東串良町	松元 友信	優等賞3席
		肝属 東串良町	川路 博人	
		肝属 東串良町	永田 客蔵	
		肝属 東串良町	清水 京	
5区	繁殖雌牛群	肝属 鹿屋市	大久保 勝浩	優等賞2席
		肝属 垂水町	笠木 ひさ子	
		肝属 鹿屋市串良町	上別府 実	
		肝属 南大隅町佐多	恒吉 勝行	
6区	高等登録群(3頭)	始良 湧水町吉松	前田 格男	優等賞1席
7区	総合評価群 (種牛群)	肝属 鹿屋市串良町	青木 春佑	優等賞5席 (種牛群1席) (肉牛群8席)
		肝属 鹿屋市	池畑 義人	
		肝属 東串良町	外園 龍一	
		肝属 鹿屋市串良町	肥後 勝也	
7区	総合評価群 (肉牛群)	川辺 南さつま市加世田	(有)江籠畜産	
		出水 長島町	鋤崎 徹	
		出水 出水市高尾野町	田中 良信	
8区	若雄後代検定群	始良 霧島市牧園町	あいら中央センター	優等賞2席
		薩摩 さつま町宮之城	(有)徳重和牛人工授精所	
		川辺 南さつま市加世田	(有)江籠畜産	
9区	去勢肥育牛	肝属 鹿屋市	薬師 成人	優等賞1席
		出水 長島町	中山 正美	優等賞4席
特別区	高校生の部	鹿中央 いちき串木野市市来	市来農芸高等学校	優等賞4席



第4区 系統雌牛群
(優等賞3席)



第5区 繁殖雌牛群
(優等賞2席)



第7区 総合評価群(種雄牛)
(優等賞1席)



表彰式の様子

特に、肉牛の肥育技術を競う第9区には全国から78頭が出品され、鹿屋市の薬師成人さんが出品した牛が1席を獲得するとともに、最も優れた枝肉に授与される「最優秀枝肉賞」も受賞しました。

審査会場では、序列を決定するために審査員が出品牛間を何度も移動するたびに、何とも言いようのない緊迫した空気が漂い、皆が固唾をのんで見守る様子が見られました。

鹿児島県の総合優勝が発表され、日本一が決定した瞬間、会場中が鹿児島県応援団の歓喜の声に包まれるとともに、お互いが感動の涙を流しながら“万歳六唱”で勝利をたたえ合いました。

今回、「チーム鹿児島」が一体となって獲得した和牛オリンピックチャンピオン。

今後、県としても関係機関と一体となって、「鹿児島黒牛」が日本一の和牛であることを国内外に向けてより一層PRしてかごしまブランドの確立につなげていきたいと思ひます。

次回2022年の第12回全共は霧島市で開催されることが決まっています。

農家の皆さんの協力はもちろんのこと、関係機関一体となり「チーム鹿児島」として力を合わせるにより、更なる品質向上・生産基盤の確立を目指し、鹿児島県が連覇できるように全員で力を合わせてがんばりましょう。

<かごしまお茶まつり肝属大会が大盛況!!>

平成29年10月29日、リナシティかのやにおいて、「かごしまお茶まつり肝属大会(県茶業振興大会)」が開催され、県内茶業関係者や消費者など多くの人で賑わいました。

今年は、地元肝属での大会であると同時に、**初となる地区単位での開催**となり、大会実行委員会を中心にこれまで準備を進めてきました。

当日は、台風22号の影響で、一部のイベントが中止になったものの、式典会場はほぼ満席となり、品評会上位入賞茶園にも多くの視察者が訪れました。

百円茶屋では、鹿屋女子高校生が考案した茶菓子(どら焼き、大福、ふくれ菓子)の提供があり、ハッピー姿の女子高校生や地元茶業青年が接待を行い、茶菓子が完売するほど盛会でした。

式典では、県茶品評会の表彰式が行われ、**深蒸し煎茶の部において、鹿屋市の池田三郎さん(池田製茶)が農林水産大臣賞、鹿屋市が産地賞(団体1位)を受賞**するなど、地元から多数の上位入賞がありました。これまで研修会などを重ねて技術力向上に努めてきた事が結果として表れ、大会に華を添えることができ、地元関係者一同、歓喜に包まれました。



<オープニングを飾る“かのや和太鼓集団魂保存会”>



<池田さんが農林水産大臣賞を受賞>



<百円茶屋で鹿屋女子高生が接待>



<鹿屋市が産地賞を受賞>

【深蒸し煎茶の部】

1等1席	農林水産大臣賞	池田 三郎	鹿屋市
1等2席	九州農政局長賞	城下 輝明	錦江町
1等3席	鹿児島県知事賞	池田 幸一	鹿屋市
1等5席	全国茶生産連会長賞	(有)城下製茶	錦江町
1等6席	県経済農協連会長賞	吉元 秀樹	鹿屋市
1等7席	県茶生産協会会長賞	徳田 洋	鹿屋市
1等8席	県茶商協理事長賞	笹原 健太郎	錦江町

知って**得**する! 技術情報!! ～野菜編～

<コナジラミ類の防除について>

昨年秋から冬にかけて、さやいんげん、きゅうり、ピーマン等管内の野菜でコナジラミ類の発生が多数見られ、防除に苦慮しました。今後3～4月の気温上昇に伴い多くの発生が予想されますので、防除について紹介します。

●コナジラミ類について

野菜で発生するコナジラミ類は主に「**オンシツコナジラミ**」と「**タバココナジラミ**」です。

コナジラミ類の被害の1つは吸汁加害による生育抑制や排泄物からのすす病の発生です。(ナス・ピーマン・さやいんげん・にがうり・すいか・メロン)

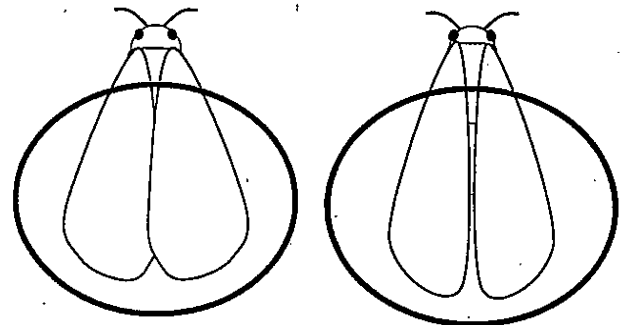
タバココナジラミには、外観では区別がつかないですが、**バイオタイプB**(シルバーリーフコナジラミ)と**バイオタイプQ**があります。バイオタイプQはナス・ピーマン・キュウリ・トマト・さやいんげん・メロンで発生が確認され、きゅうり退緑黄化病やトマト黄化葉巻病等の病原ウイルスの媒介虫でもあります。また、さやいんげんの莢の白化やかぼちゃの葉の白化症状、トマトの果実の着色異常(QもBも発症)を引き起こします。

○成虫での見分け方(成虫の翅の形が異なる)

- ・オンシツコナジラミ
翅の先が広くて丸く、**左右2枚の翅は重なり逆ハート形**です。
- ・タバココナジラミ
翅の先が前種に比べてやや細く、**左右2枚の翅は重なりません**。

「県 | PM情報ネットワーク通信第17号」より

オンシツコナジラミ タバココナジラミ



●防除のポイント

- 発生初期防除**・・・多発生すると防除が困難なので、初期防除(育苗期からの徹底した防除)が必要です。薬剤散布は葉裏にもかかるように入念に散布します。また、薬剤の選定は、薬剤抵抗性が発達しやすいので、**異なる系統の薬剤をローテーション**散布します。
- 黄色粘着トラップ**設置・・・早期発見のためにハウス開口部付近に設置することも有効です。
- 防虫ネット**設置・・・ハウス内にコナジラミ類を侵入させないために**ハウス開口部(入口・谷・サイド)**に目合い0.6mm以下のネットを設置します。
- ハウスの**蒸し込み**・・・次年度作での発生を抑制し、ハウス外へコナジラミ類を拡散させないために、栽培終了後にハウスを密閉し、蒸し込みを行います。**ハウス内温度が40℃以上になる日が約10日間**必要です。
- 周辺雑草の除草・・・夏場にハウス周辺でコナジラミ類が増殖しないように、**露地での発生源を減らすための除草**を行う。コナジラミ類は、特にキク科(ヒマムカシヨモギ・アレチノギク・ヒメジョオン・セイタカアワダチソウ等)の雑草を好みます。

※コナジラミ類を減らすためには、ハウスの蒸し込みや周辺雑草の除草を地域全体で取り組むことが重要なポイントになります!

知って**得**する!技術情報!!～果樹編～

<鳥獣害から作物を守る>

近年、鳥獣による農作物の被害が問題になっています。果樹では、カラス、ヒヨドリなどの鳥害に加え、イノシシ、サル、シカなどの獣害による被害も大きく、平成28年度の被害額は約5千4百万円に上っています(表1)。

そこで、鳥獣害対策の基本的な考え方と効果を上げている事例を紹介します。

表1 H28大隅地域における鳥獣による果樹の被害額 (単位：千円)

獣 類				鳥 類			合 計
イノシシ	シカ	サル	その他獣	カラス	ヒヨドリ	その他鳥	
16,544	4,521	5,595	2,720	13,311	9,926	1,321	53,938

1 鳥獣害対策の基本

- (1) サルやイノシシ等が身近に出没しています。放置果実は餌付けになりますので、果実を放置しないようにしましょう。
- (2) ヒヨドリ等の鳥害はネット被覆やテグス設置による侵入阻止や羽に触れることによる嫌がらせで、被害軽減を図りましょう。
- (3) 被害の多いところは、辺塚だくだい、ゆず等の香酸柑橘の栽培を検討しましょう。
- (4) 一人の行動だけでは防ぐのは困難です。集落ぐるみで取り組みましょう。

2 効果的な鳥獣の侵入防止策



写真1 鳥害対策の決定版：ネット被覆

写真2 ワイヤーマッシュと電気柵の組み合わせでイノシシとサルをシャットアウト!

鳥獣害対策関係の補助事業には、鳥獣を寄せ付けない取組として、集落単位などで耕作放棄地の発生防止や水路・農道等の草刈りなどに助成される「中山間地域直接支払交付金」や鳥獣の侵入を防ぐ電気柵やワイヤーマッシュなどの設置費用を助成する「鳥獣害対策実践事業」があります。詳細については地元の市町にご相談下さい。

知って得する! 技術情報!! ～花き編～
<ネグサレセンチュウによる被害及び対策について>

ネグサレセンチュウにとって花の根はえさであり、加害された株は**生育不良の原因になります**。
 ハウス内は年間通して温度が保たれており、25～30℃の地温条件がネグサレセンチュウの増殖に好適です。また、冬期のセンチュウ被害は、10～11月頃の定植初期（高密度の場合）か、3～4月の地温上昇がみられる頃からの後半の被害で、花が小さく先細りします。しっかり対策を行いましょう。

○ネグサレセンチュウ被害の進行（例、キク）

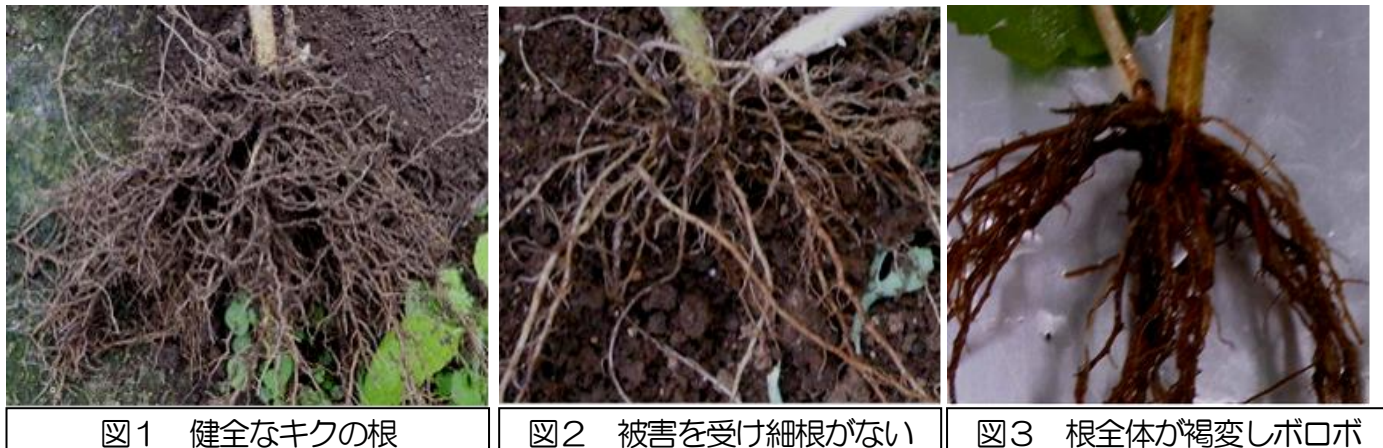


図1 健全なキクの根

図2 被害を受け細根がない

図3 根全体が褐変しボロボロ

健全な根は、白く、多くの細根を持ち、地上部をしっかりと支えています（図1）。
 センチュウの被害を受けると**細根はなく**、太い根のみが残り、生育が不良になります（図2）。
根全体が褐変し、土壤に水分があっても吸水できず、下葉から枯れ上がります（図3）。

○対策及び注意点

土壤消毒を行にくい冬場は、**生育初期の根を守るためにも定植時の粒剤混和は非常に重要**です。
 土壤消毒を必ず年1回は行いましょう。また、くん蒸処理による消毒にあたっては、**5～10月であれば地温が高く、短い処理期間で効果が上がります**。さらに一作毎の定植時にラグビー粒剤などを土壤に混和することはセンチュウの増殖を抑制する上で効果的です。

※1年以上土壤消毒を行っていないほとんどのほ場で、ネグサレセンチュウの被害が確認されました。
 （平成29年11月調査結果）

☆毎作、定植時の粒剤混和

- ラグビー粒剤
- ネマキック粒剤
- ネマトリンエース粒剤

☆夏～秋に定植前の土壤消毒

- 熱水消毒 ・ 太陽熱消毒
- D-D（テロン92）
- バスアミド微粒剤， ガスタード微粒剤
- クロルピクリン錠剤

土壤消毒時の注意点！

- 土壤消毒前に前作の残渣を持ち出す
- ロータリーはゆっくりかけ、土の塊を残さない
- 適正な水分になるよう消毒前の土壤水分を調整する
- 低温時は十分な処理期間を確保する

ほ場内に生育不揃いがないか、花きの根の褐変や細根の有無を確認しましょう！

<平成29年度 肝属地区青年農業者会議を開催！>

～プロジェクト活動発表・意見発表～

肝属地区農業青年クラブ連絡協議会では、平成29年10月6日に地区青年農業者会議を開催し、青年農業者をはじめ指導農業士など59人の出席のもと、プロジェクト発表の部2課題、意見発表の部6課題の素晴らしい発表がありました。



城下会長による主催者あいさつ



藤崎審査委員長による講評

【プロジェクト発表の部】

プロジェクト発表では、新しい技術や新作型について実践した課題解決活動やその成果について発表が行われ、最優秀賞・優秀賞それぞれ1名を表彰しました。

最優秀賞は、東串良町4Hクラブの東善寛さんが受賞しました。

東さんは、「きゅうり栽培における新たなIPM技術への挑戦」の課題を設定し、難防除害虫「ミミバグミ」対策としての土着天敵「外 加カカ」の活用及び「うどんこ病」対策としての硫黄くん煙の効果の実証に取り組みました。その結果、それぞれの防除効果と農薬散布回数が軽減できたことの成果が報告されました。



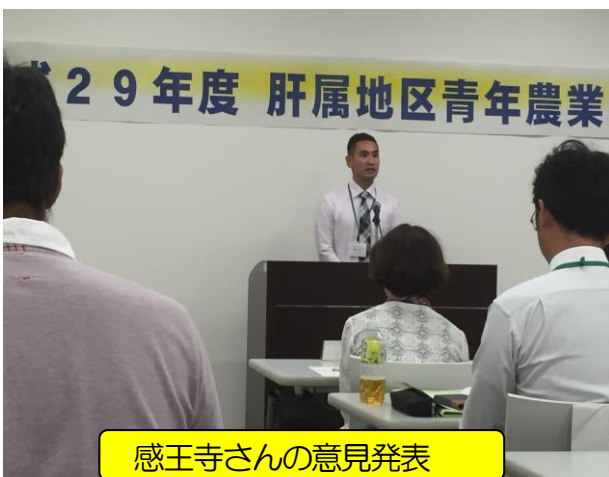
東さんのプロジェクト発表

【意見発表の部】

意見発表では、6名が、就農の動機や農業経営への考え方、将来の目標や夢、農業に対する思いについて発表し、最優秀賞1名、優秀賞5名が表彰されました。

最優秀賞は、鹿屋農業青年クラブの感王寺耕太さんが受賞しました。

感王寺さんは、「目指せ！次世代のリーダー！」と題して、就農後の失敗や悩み事の連続の中、先輩からのアドバイスや熱血漢の友人達との交流により、課題に向き合えるようになったこと。また、今後は、自分で描いたリーダー像を目指して、若い世代と地域を盛り上げていきたいと熱く語りかけました。



感王寺さんの意見発表

東さんと感王寺さんは、2月に伊佐市で開催される県青年農業者会議にて発表します。

めざせ！九州大会&全国大会！